



海外室 だより

開幕 沿海鉱物資源探査集団研修物語

昭和63年度の第23回沿海鉱物資源探査集団研修は 5月30日開講式が工業技術院研究協力センターにおいて執りおこなわれ 6ヶ月間にわたる研修日程の幕が開けられました。今年度は ブラジル ビルマ 中国 キューバ インドネシア 韓国 パキスタン シェアラオーネ タイ ベネズエラ メキシコの11ヶ国から11名の役者を迎え沿海鉱物資源探査集団研修物語が上演されます。さっそく 5月30日 物語のプロローグとして歓迎会が催され 各自お国自慢の歌や踊りを披露し 芸域の広さをうかがわせました。今年も賑やかな研修物語となりそうです。

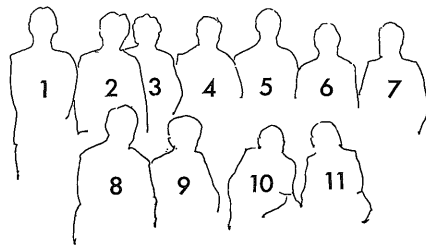
物語のプログラムは 第1幕“基礎科目” 科目の内容は環太平洋の地質 地球物理学 海洋地質学 海洋堆積学 海底鉱物資源学などで構成されていて 6月中に大学の先生方を講師陣に迎え行われます。

第2幕は “専門科目” この場面は本研修物語の主題であり 沿海鉱物資源探査に関する物理探査技術の理論 データ処理 解析 海底堆積物の処理 分析について 室内実習を主体に7月から8月の間に行われます。

第3幕は “特別講義” ここでは地質調査 鉱物資源探査の新技術などの新しい話題を紹介し 芸域の拡大につとめます。

第4幕は “石油特別科目” 石油部門については沿海鉱物資源探査の主題でもあり 特別に集中コースを設け より専門的な講義・実習が石油関連機関の職員の方々を講師陣に迎え行われます。すべての講義 実習は第4幕までで9月中に終了します。

エピローグは “個別研修” この期間は約2ヶ月で 各自個別の課題を選定し 芸を深め技術レポートの作成を行います。これらの他に 4回の研修旅行 野外実習のため北海道・新潟方面 九州・関西方面などへ



- 1: チャトラパッポン
- 2: リー
- 3: ラファエル
- 4: フローレス
- 5: ロン
- 6: ムーサ
- 7: マルコス
- 8: フランコ
- 9: モー
- 10: マラー
- 11: ヨハネス

出掛けます。これは いわば地方巡業に当り 石油探鉱現場 石炭採掘現場 地熱開発現場などを見学してまわるとともに より日本を深く理解してもらうために実施されます。また 白嶺丸による乗船実習 小型船舶を使用しての沿岸海域調査実習など 洋上公演も予定されています。

この物語は 脚本も演出家もなく 参加者各自が勝手に物語を演じていきます故 皆様方の御指導ならびに御協力を得ることなくしては物語の良い結末は迎えられないと考えられます。本年も多々御迷惑をお掛けする点もあろうかと思われませんがどうぞよろしく願いします。それでは昭和63年度沿海鉱物資源探査集団研修物語出演者の役回りについて紹介します。

マルコス (ブラジル)

ブラジル石油公社 ペトロプラス勤務 石油探査に關する地質家。特に物理検層の専門家。

モー (ビルマ)

ミャンマ石油公社勤務 地球物理技師 主として地球物理データの取得 処理 解析に従事している。

ロン (中国)

中国地質鉱産部海洋地質調査局勤務 地質家 東シナ海 南部黄海の海底地質調査に従事し 底質図等の出版を行っている。

ラファエル (キューバ)

石油探査企業石油探査研究センター勤務 地質兼地球物理家 石油・ガスフィールドにおける基盤およびその構造解明のため深層波解析に従事している。

ヨハネス (インドネシア)

石油天然ガス人材開発センター勤務 地質専門の教官 堆積学 地層地質 検層等の指導および 石油地質コースのプログラム作成を行っている。

リー (韓国)

韓国動力資源研究所資源探査部海洋探査室勤務 地球物理家 大陸棚地域における石油探査の地球物理データの解析 朝鮮半島周辺の海底地質図作成 海底構造物のための海底物理探査等に従事している。

ムーサ (パキスタン)

石油・天然ガス開発協会沿海部勤務 地球物理家 パキスタン沿海域の堆積盆に関する石油探査のための地質・地球物理データの総合化 編集 評価 解析業務に従事している。

マラー (シエラレオーネ)

シエラレオーネ政府地質調査所勤務 地球物理家 陸域海岸域の鉱物資源調査 および地下水資源探査に従事している。

チャトラパッポン (タイ)

工業省鉱物資源局鉱床地質課勤務 地球物理家 タイランド湾 アンダマン海における漂砂鉱床探査に従事している。

フランコ (ベネズエラ)

鉱山エネルギー省地質局勤務 地質家 陸上鉱物資源調査に従事 特に最近ではパラグナ半島周辺のオフィオライト分布 鉱床評価を行った。

フローレス (メキシコ)

メキシコ原子力研究センター勤務 地球物理家 原子力発電所建設のための基盤構造調査 地震活動度調査研究に従事している。

その他コース担当者は

木下泰正:

地質調査所海洋地質部所属 コースリーダー 照明係として物語の舞台を明るくするよう努めます。

湯原 敦:

国際協力事業団 コーディネーター 照明係として舞台を明るくするとともに 大道具 小道具係として教材の準備に駆け回ります。

堀内香代子:

照明係補佐として 舞台照明に彩りを添えます。

さらに 海外室職員全員が裏方となって舞台をささえてまいります。参加者は この物語を演じたあと沿海鉱物資源探査について世界の檜舞台で活躍されることと信じています。今年も皆様方に御指導 御支援を重々よろしくお願い申し上げます。(木下)

海外室員の異動

前号で海外室長の交代を紹介しましたが 同じく4月1日付で室員にも若干の異動がありましたので簡単に触れておくことにします。

寺岡易司海外資源特別研究官は古巣の地質部へ層序構造課長として帰り(後任・遠藤) 金井 豊室付主研の併任が解かれました。また 集団研修グループの石井武政主研(地下水コースリーダー)と井波和夫主研(沿海コースサブリーダー)の併任も解除されました。皆さん夫々の担当分野で御活躍頂いた方々です。長い間の御尽力に深く感謝すると共に 本業分野での一層の御発展を祈ります。

新しく環境地質部水資源課の安原正也主研(地下水コースサブリーダー)と物理探査部技術開発課の村上 裕主研(5月1日付・室付)が併任となりました。

また本院国際研究協力課の併任者も4月1日付で森下祐一主研(鉱床部鉱床研究課)から宇都浩三主研(技術部地球化学課)に交代しています。(遠藤)